

RACE ARCHIVE Rd.4-5
**SUZUKA
CIRCUIT**

INTERVIEW *Toshiki* **OYU**
**1勝することに
重きをおく**

#39 39号車ドライバー
大瀧 都史樹

www.inging.co.jp

#4 NEWS PAPER

TODAY'S RACE Rd.3-6-7

FUJI SPEEDWAY
18 SAT - 19 SUN JUL

RACE ARCHIVE

Rd.4 鈴鹿サーキット **決勝** 5月23日(土)
天候：曇り/雨 路面：ドライ/ウエット

決勝の火ぶたが切って落とされた。

公式予選の後も、鈴鹿サーキットは心配された雨は降らず、やや風があり肌寒さはあるものの、午後2時45分から行われた決勝レースはドライで迎えた。気温20度/路面温度24度というコンディションのもと、1周のフォーメーションラップを経て第4戦の決勝の火ぶたが切って落とされた。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、阪口が4番手からスタートを切ったが、ひとつ順位を落とし5番手につける。しかしオープニングラップのAstemoシケインで阪口は#64 佐藤蓮をオーバーテイクすると、3番手を走る#14 福住仁嶺の背後にピタリとつけていった。一方、大湯も1周目の位置取りが良く、オープニングラップに9番手から6番手までポジションを上げてみせた。ただ、順位アップを果たしたものの、予選に続き感触が悪く、序盤からペースに苦しんでしまう。ストレートスピードも伸びず、2周目から毎周のようにオーバーテイクを許してしまうことに。無線からは大湯の悲痛な声が飛んだ。



両者を送り出した矢先

そんな厳しい大湯の状況をなんとか打開すべく、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGはピットウインドウがオープンした8周終了時に大湯をすぐさまピットに呼び戻した。チームも素早い作業で大湯を送り出し、ピットイン直前に抜かれていた#22 松下信治を先行してみせた。一方、阪口は前を走っていた#14 福住がピットインしたことから3番手に順位を上げ、2番手を走る#16 野尻智紀を追っていたが、阪口は14周目に好ペースで迫ってきた#50 野村勇斗の先行を許してしまった。そんな展開のなか、チームは阪口のピットインのタイミングをうかがっていたが、19周目に130Rで12番手だった#9 野中誠太がクラッシュ。セーフティカーランとなった。阪口はこの機を逃さずピットインし、4番手につけた。24周目、レースはリスタートを迎えるが、この直前に雨が強まりはじめる。スリックでは走行が難しく感じるスリッピーな状況のなか、阪口の目の前で1台がクラッシュ。さらに1台がグラベルストップし再度セーフティカーが入った。

天候に翻弄されるレースに

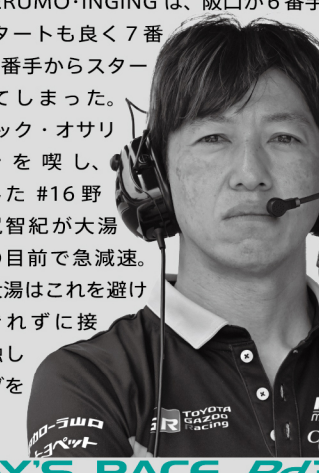
ここで、阪口は上位のライバル同様スリックでの走行は不可能と判断し、コンディションに合わせピットインしウエットタイヤを履いた。一方、13番手だった大湯は大逆転を期し、スリックのままステアアウトするギャンブルに出た。この作戦は功を奏し、29周目のリスタート時、雨は止み始めた。大湯にとっては表彰台のチャンスとなったが、ドライでの絶対的なペースが足りず、少しずつ順位を落としてしまい、6位でフィニッシュすることになった。またウエットタイヤに履き替えた阪口は、追い上げ実らず12位でフィニッシュ。多くのライバル同様、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGにとっても、天候に翻弄されるレースとなった。

Results	38	予選	4位	決勝	12位
	阪口 晴南				
	39	予選	9位	決勝	6位
	大湯 都史樹				

RACE ARCHIVE **Rd.5** **決勝** 5月24日(日)
天候：曇り/晴れ 路面：ドライ

阪口、悪くないスタートを切る

午前は曇天だった鈴鹿サーキットは、午後に向けて晴れ間が広がり、午後2時45分から行われた決勝レースは気温25度/路面温度41度というコンディションで迎えた。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、阪口が6番手から「悪くない」スタートを切るも、周囲のスタートも良く7番手でオープニングラップを終える。一方、21番手からスタートした大湯は、1周目の混乱に巻き込まれてしまった。Astemoシケインで17番手スタートの#19 ザック・オサリンを喫し、#16 野尻智紀が大湯の目前で急減速。大湯はこれを避けきれずに接触し、フロントウイングを痛めてしまった。



大湯、良好なペースで走行

大湯は1周をフロントを痛めた状態で走行を強いられ、緊急ピットインを行ったが、パーツの飛散によりレースはセーフティカーランとなり、遅れは最小限に。ただ順位は23番手と、最後尾近い順位になってしまった。5周目にリスタートを迎えると、阪口は#50 野村勇斗をパスし6番手に浮上。さらに#6 太田格之進とバトルを展開しながら序盤のレースを進める。8周を終えピットウインドウがオープンするとピットインする車両が出はじめたが、阪口は上位集団と同じ戦略を採りコース上にステアアウト。4番手につけていった。一方、早めのピットインを行ったのは大湯。公式予選まで苦しめられていたフィーリングの悪さは、タイヤに熱が入ってからはやや改善しており、比較的良好なペースで走行。後方から接近してきた#28 小林利徠斗を抑えながらレースを進めた。SUPER GTでのチームメイトとのバトルとなったが、#28 小林にバトルの仕方を教えるかのような余裕もみせるレース中盤となった。



苦しい中でも戦い抜く

オープニングラップ後のセーフティカーランをのぞき、このレースはアクシデントなく推移することになったが、阪口は21周を終え2番手を走っていた#1 岩佐歩夢と同じタイミングでピットイン。チームもきっちりと作業を終え、#1 岩佐とほぼ同じタイミングでピットアウトした。先にピットインしていた#36 坪井翔の背後でコースに戻ると、27周目にはこれをパス。全車がピットを終え、そのまま終盤を戦い、熾烈なバトルフィニッシュした。一方、大ラップには#12 小出峻をかわした。2026年のスーパーフォーミュラは、7月に富士スピードウェイで第4大会を迎えるが、その前にはテストも行われる。チームは後半戦に向けさらなる改善を進めていく。



Results	38	予選	6位	決勝	4位
	阪口 晴南				
	39	予選	DNQ	決勝	17位
	大湯 都史樹				

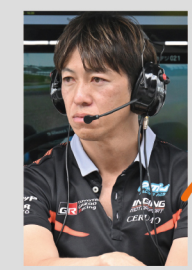
INTERVIEW @4 SAKAGUCHI

最近の調子の良さをしっかりと出せた

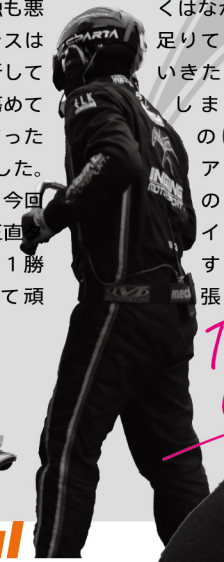
盤以外はほぼクリーンなレースになりましたが、その中できっちりと戦っての4位だったので、最近の調子の良さをしっかりと決勝でも出せたと思います。レースの内容としても序盤、中盤にかなりアグレッシブにバトルができましたし、強いレースができたと思っています。ペースもクルマも良く、自信をもってバトルができました。戦略もとても良かったですね。こういうレースを続けていけば今後チャンスが絶対に出てくると思います。今回、#14 福住仁嶺選手が優勝しましたが、今季チームを移籍して、1台体制でみんなの支えとともに優勝したのは感動しました。一方でその光景を見ての悔しさもあるので、次は自分の番だと思って次戦以降も頑張りたいです。

1勝することに重きをおく

前日は苦しいレースでしたが、今日はタイヤの内圧が上がってからのレース後半のペースはそれほど悪くありませんでした。感度も悪くはなかったです。たまたまはいい理由をしっかりと解析して1周目のアクシデントでタイヤも傷めてニュータイヤを1セット使ってしまったのに対して痛手になってしまいました。は避けようがありませんでした。今回は正直厳しくなりましたが、まずは1勝をおいて次戦に向けて頑張りたいと思います。



Toshiki OYU #39 39号車ドライバー 大湯 都史樹



To be Continued...

TODAY'S RACE Rd.3-6-7 FUJI SPEEDWAY 18SAT-19SUN JUL

